

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 62 号 (H28.10.23)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 今年の 10 月は天候不順で、涼しくなったかなと思えば夏のような暑さとなり、着るものをどうするか悩ましい季節でした。

体調管理も難しかったです、皆さんいかがだったでしょうか。

さて今回は、ザンビアに行かれた山元香代子先生から早速報告書が届きましたので皆さんにお伝えしますと共に、山元先生が不在の時に巡回診療に同行された医学生さんからの感想が届いていますので併せてお伝えします。

会の活動から

・以前 ORMZ ニュース第 58 号で、マラリア対策としてモデル的に蚊の殺虫剤屋内噴霧を実施したことについてお伝えしていましたが、この取組みをルアノ地区全体で実施するため、「世界の人びとのための JICA 基金」活用事業に助成金の申請をしておりました。この度 JICA (独立行政法人国際協力機構) から採択との通知が届きました。約 80 万円ほどの事業ですが、できるだけ早く実施できるよう今後正式な申請手続きを進める予定です。

賛助会費納入のお願い

・認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業年度は 1 月から 12 月です。早 10 月も過ぎようとしております。賛助会員の方でまだ賛助会費を未納の方は、どうぞ賛助会費 (個人一口 5000 円、団体一口 10000 円) のご協力をよろしくお願ひします。

・入金を確認しました際には、日高からその旨メールを差し上げます。また当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄付 (賛助会費含む) いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書 (賛助会費も寄附金と同様税控除の対象) をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 (info@ormz.or.jp) までご連絡ください。

・Web 口座をお持ちの方はネットからも振込みができます。詳しくは各銀行等にお尋ねください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

現地からの報告 (山元香代子先生)

みなさま いかがお過ごしでしょうか。日本は秋らしくなったことと思います。私は 10 日にルサカに戻りました。日本での歯の治療に時間がかかりました。

こちらは乾季で、昼間は 30 度を超えるくらい暑いですが、乾燥しているのでしのぎやすいです。雨は全く降らないのに、マンゴーの実がたわわに実っています。断水は続いていて、



朝早くしか水がでませんので、早起きして水を貯めています。停電は1日4時間ぐらいと短くなりましたが、計画通りの時間ではなく突然停電になり、困っています。

私の不在中も、現地スタッフががんばり、巡回診療を継続していました。その内容に関しては、これから準医師のムレタさんの残したノートや運転手テンボさんの記録を参考にひとつひとつチェックしていきます。

12日はルアノ地区の巡回診療でした。古いランドクルーザー（ランクル）の左前輪のハブが壊れ、チペンビヘルスセンターの近くで動けなくなりました。別なランクルを呼んで、荷物を移し替えて、ルアノに到着したのは14時過ぎでした。ほとんどの患者は待ちくたびれて帰宅してしまい、診察した患者数は52名でした。マラリア陽性は34名中4名と少なく、上気道炎、結膜炎、下痢の患者が多くみられました。

故障したランクルは、盗難の恐れがあるので、バッテリーをはずしてヘルスセンターにおいてきました。翌日運転手が町で部品を捜し、チペンビまで戻り修理しました。ルサカに帰ってきたのは20時過ぎでした。このランクルは2011年に活動を開始した頃に中古で購入して、5年走っています。巡回診療に出るたびに不具合が出て、修理している状況です。ほんとうによく走ってくれましたが、もう寿命かなと思います。

写真はキャッサバの葉を料理したものです。事務所の敷地内に木があり、メイドのバンダさんがまず叩いて粉碎してから、よく料理してくれます。

みなさま、お元気でお過ごし下さい。

*皿の中の緑いろがキャッサバ その横がカペンタという干し魚、その横はキャベツを煮込んだもの 白いのがトウモロコシの粉で作ったシマ こちらの主食です。



医学生からの報告（巡回診療に同行して）

先日は ORMZ のルアノ地区での巡回診療に同行させていただき、誠にありがとうございました。

一番印象に残ったところは、僕たちが同行した時の巡回診療が全て現地の方だけで行われていたことです。日本の団体ですので、日本人医師が現地に行って診察をするものだと思い込んでいました。

他の NGO を見学させていただいた時にも言われたのですが、ただ日本人が支援しているだけだと、撤退した後には何も残らないと思います。ORMZ が、部分的に介入して巡回診療が現地のスタッフだけで回る仕組みを作っていることに驚きました。

また、現地のボランティアの方のほとんどが非医療従事者であることも、日本との違いを感じました。日本では安全面の問題から、一般人を医療の中に組み込むのは難しいかもしれませんが、ザンビアでは健康な方も共に活動することで医療への関心を高めているように思います。日本でもリハビリなどといった分野でメディカルスタッフと一般の方が協力できる仕組みを取り入れてもいいかもしれないと考えました。

今回の巡回診療への同行は、見るもの全てが新しく新鮮だったので、良い経験になったと思います。山元先生ならびに ORMZ のスタッフの方々には心から感謝しております。

大阪大学医学部医学科4回生 王 駿平

この度はルアノ地区への巡回診療に同行させていただき、ありがとうございました。途上国が抱える地域医療の問題と、それに対する取り組みの様子を体感することができました。

最も印象的だったのは、現地スタッフの働きぶりです。準医師の、2週間毎に行われる(ルアノ地区)巡回診療の度に診療地まで道無き道を4時間以上かけて向かうという話には驚きました。

また、ルアノ地区に住むボランティアスタッフも、近くに住んでいるという人でも歩いて3時間かけて来ると聞きました。ボランティアスタッフは診療に来た村人と顔見知りであることがほとんどで、非常に明るく和やかな雰囲気の話が絶えませんでした。

巡回診療を現地スタッフによって行うことは、今後彼らが自立して医療を行うことができるようにという点で重要であると同時に、外国人が提供する医療支援という堅苦しさを取り払う上でも大きな役割を果たしているということを感じました。

今回参加させていただいた巡回診療では、医療支援のあり方とそれを支える現地スタッフの熱意を目の当たりにしました。先進国としての日本の支援の枠組みと、日本とは違うザンビアの文化や人間性が見事に調和して初めて、これからザンビアが発達していくための礎となり得るのだと思いました。

医療を行うものとしての心構えを、ORMZの支援の様子や現地の医師、ボランティアスタッフから教わったような気がします。貴重な経験をさせていただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

大阪大学医学部医学科4回生 宇野 貴宏



*訂正とお詫び：ニュース第61号で、9月3日常陸大宮済生会病院開院10周年記念式典に山元香代子先生が招かれ講演を行ったことを掲載し、その際の参加人数を200～300人としておりましたが、河野幹彦病院長から「聴衆は800～900名ほどで、大ホールがほぼ満員になり、中学生、高校生もたくさん来てくれました。講演は大変すばらしく、感慨を受けた方がたくさんおられました」とのご連絡がありました。訂正しますと共に、河野幹彦病院長、ありがとうございました、お礼申し上げます。

以上

◎どうぞ今後ともご支援のほどよろしく申し上げます